

てにをはの泣いてゐる句や夜の秋

藤田湘子

選者としての湘子の嘆息がきこえる。湘子は「選は糸電話」だと言っていた。会員一人一人と主宰をつなぐのはそれぞれと結ばれた糸電話。句稿を見れば、「この句採って！」と句の方から訴えかけてくるエネルギーに満ちた句もあれば、どうぞ通り過ぎて下さいと言わんばかりの消極的な句稿もあり、作者が投句にかけてエネルギーの違いは一目瞭然、すぐに分かるのだという。そして、さぼっている句は、掲句のような仕儀となる。

白内障の手術の時、レンズの調整を選句に合わせたという湘子。「自分の句をもっと大切に」という言葉を何度も聞かされた。「夜の秋」に少し救われる。選者の忍耐と懐の深さを感じさせる、晩夏の夜。

1985年 (s60.07.28作) 第八句集『黒』 鑑賞・野本京